

令和 7 年度
(2025 年度)

「運営に関する計画」

学校目標

「学びに向き合い、心豊かにたくましく生きる子を育てる」



大阪市立出来島小学校
令和 7 年 4 月

大阪市立出来島小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

令和 5 年度大阪市小学校学力調査において、「学校のきまりを守っていますか」の項目について肯定的な回答をした児童の割合は 90.9%であった。

「ルールを守る」といった基本的なモラルを定着させていく規範意識、社会性の育成を継続的に行っていく必要がある。また、いじめや問題行動を生み出さないよう、人権教育や道徳教育を中心に、学校教育活動全体を通して互いに支え合うといった意識を高め、温かい人間関係を構築していくことも必要である。

これまで、学年の発達段階に応じた体験学習や地域の方々との交流、ゲストティーチャーとの学習などを通して他者への理解や思いやりを育む活動に取り組んできた。今後も高めていくことが豊かな心の育成には大切であるとする。

自分たちが住んでいる地域、西淀川区は大規模災害や自然災害に弱い土地柄である。そこで、防災・減災について目を向け、意識を高めていく学習を継続的に行う。保護者や地域に開かれた学校経営を行い、教育コミュニケーションの核として学校が役割を果たしていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和 5 年度において、国語科単元テスト全学年平均点が 80.5 点と指標を上回り、学習内容の定着が見られた。また、大阪市小学校学力経年調査においても、大阪市平均を上回る学年（3 年：社・算・教科合計、4 年：算）もあった。しかし、全国学力・学習状況調査においては、大阪市平均を下回り、児童が身に付けてきた知識を活用するまでには至っていない。新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」に向けて、令和 4 年度より、全児童に「自主学習ノート」を配付し、「自分の言葉でまとめて書く力」を向上させる取り組みを行っている。教科を問わず、児童が興味・関心をいだいた内容から取り組めることから、児童の主体性が育ってきている。今後も継続し、さらに協働的な学びへと取り組ませたい。

全国体力・運動能力、運動習慣調査では、男子、女子ともに合計点が全国平均を上回った。

しかし、児童アンケート「体育の時間はがんばって運動している」と肯定的な回答は 76%にとどまっている。運動やスポーツをすることに対して肯定的に捉える児童を増やし、体力・運動能力の一層の向上を目指す。

【学びを支える教育環境の充実】

令和 3 年度、一人一台端末の配布が終了し、校内の ICT 環境が整備・充実した。協働的な学び、個別最適化の学習へと取り組んでいきたい。

令和 5 年度の月の時間外労働平均時間は、依然として 20 時間にも及んでいる。時間外労働をなくすことで、教員の授業準備や社会の見識を深めたり、ICT 技術を磨いたりする時間を生み出し、児童の学力向上を実現する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートの「自分には良いところがある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の小学校学力経年調査における標準化得点を、令和3年度より向上させる。
- 特に課題である立ち幅とびの記録を、令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、大阪市平均以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は、手紙やホームページを通して情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、91%以上にする。
★R06:校内児童アンケート（1・2年）100%、経年調査（3～6年）77.4%
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上とする。
★R06:校内児童アンケート（1・2年）100%、経年調査（3～6年）71%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
★R06:3年生（現4）0.904 4年生（現5）0.972 5年生（現6）0.980
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。
★R06:校内児童アンケート（1・2年）81%、経年調査（3～6年）77.4%

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の78%以上にする。
★R06:77.6%
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（「1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない」及び「1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない」）を満たす教員の割合を93%以上にする。
★R06:92.0%

3 今年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【安全・安心な教育の推進】

年度目標	達成状況
全市共通目標（小・中学校） ○ 小学校学力経年調査における「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、91%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上とする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 当該月の生活目標を児童に周知し、規範意識を高める。		
【指標】 月目標を守るための「出来るんジャースタンプカード」を実施し、レベル3に達する児童の割合を70%以上にする。		
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 全学年において社会体験や多様な体験活動を実施することを通して、生きる力を育成する。		
【指標】 各学年、年間3回以上、社会体験や多様な体験活動を実施する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
次年度への改善点		

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標	達成 状況
全市共通目標（小・中学校） ○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。 ★R06: 3 年生（現 4）0.904 4 年生（現 5）0.972 5 年生（現 6）0.980 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80%以上にする。 ★R06: 校内児童アンケート（1・2 年）81%、 <u>経年調査（3～6 年）77.4%</u>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 校内研究の視点に基づいて、指導法を工夫する。	
【指標】 言葉や文字、パソコンへの入力など、児童が自分の考えを表現する活動を 1 日 1 回以上設ける。	
取組内容②【基本的な方向 4 健やかな体の育成】 運動強調週間を設け、運動への関心・意欲を高める。	
【指標】 年間 2 回以上、運動強調週間を設けるとともに、運動がんばりカードを用いて、実施後の記録が実施前の記録を上回る児童の割合を 70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標	達成状況
全市共通目標（小・中学校） ○ 授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の78%以上にする。 ○ 第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１（「１か月の時間外勤務時間が４５時間を超えない」及び「１年間の時間外勤務時間が３６０時間を超えない」）を満たす教員の割合を93%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 朝学の時間などで、デジタルドリルやタイピングの学習、心の天気の入力を行い、積極的な学習用端末の活用を図る。		
【指標】 校内児童アンケート「日々の授業の中で、学習者用端末を活用している」の項目で、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を78%以上にする。		
取組内容②【基本的な方向7 人材の育成としなやかな組織づくり】 校時や会議をさらに見直し、放課後の時間の確保に努める。		
【指標】 月ごとの時間外勤務時間が45時間を超える教員の人数を、前年度以下にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
次年度への改善点		